

寒河江市における 認知症高齢者見守り事業の展開



認知症の人の「日常」と
「緊急」を支援するために

認知症サポーター: 4, 818人
認知症にやさしいお店登録: 98店舗
H30年9月末現在

山形県寒河江市高齢者支援課
地域包括支援係 川部裕子

寒河江市の概要



面積	139.03km ²
人口	41,238人
世帯数	14,040世帯
高齢者人口	12,780人
後期高齢者人口	6,923人
高齢化率	30.9%
要介護(要支援)認定者数	2,178人
要介護認定率	16.9%
第7期介護保険料	5,980円
日常生活圏域	1圏域
地域包括支援センター	直営1か所

平成30年9月末現在



寒河江市は、山形県のほぼ中央に位置し、山形市から20キロメートル圏内にあります。西村山地域の中核として発展し、市内を庄内地方と県都・山形市を結ぶ国道112号が走り、また、山形県の中央を横断し、庄内地方と宮城県とを結ぶ山形自動車道には、寒河江インターチェンジと寒河江サービスエリアスマートインターチェンジでアクセスしており、県内高速交通網の要衝となっております。

山形県の母なる川・最上川と清流・寒河江川が、市街地を包むように流れ、月山と葉山、遠くに蔵王、朝日連峰を望み、四季の変化に富んだ美しい景観と豊かな自然環境に恵まれ、千年以上もの間育まれてきた歴史や文化を有しております。

寒河江市の認知症に関する事業

項目	目的	対象者	事業名等	地域支援事業区分
①予防	認知症を予防する	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師等による健康教育 ・認知症予防教室 (脳の元気アップ教室、楽しく脳トレ教室、認知症予防体操教室等) 	総合事業 ・一般介護予防事業
②早期支援	認知症発症早期及び認知症の人や家族を支援する	認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターによる相談対応 ・認知症初期集中支援チーム ・認知症介護教室(認知症接し方勉強会) 	包括的支援事業 ・認知症総合支援事業
③学びと理解	認知症を正しく理解し応援者となる人を増やす	市民及び市内への通勤通学者	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座 ・認知症サポーターステップアップ講座 ・認知症サポーター交流会(オレンジサポーターの集い) ・認知症にやさしいお店登録事業 	任意事業 ・認知症高齢者見守り事業 ・認知症サポーター等養成事業
④支え合い	地域全体で認知症の人を見守り支える	市民及び市内への通勤通学者	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートフルカフェ(寒河江市版認知症カフェ委託2カ所) ・「無事かえる」支援事業 ・さがえ無事かえる協力ネットワーク事業 (「どさ、いぐなやっす？」ひと声運動、やまがた110ネットワーク活用認知症見守り声かけ訓練等) 	包括的支援事業 ・認知症総合支援事業 任意事業 ・認知症高齢者見守り事業
⑤認知症ケアの向上	認知症の人を支援する医療・介護の関係者の対応力を高める	市内の医療・介護従事者	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域支援推進員の設置 ・寒河江市介護保険関連事業所連絡会(通称スマイルネット) ・認知症対応力向上研修 	包括的支援事業 ・認知症総合支援事業



認知症の人の見守り体制構築の取組みに至るきっかけ

○冬場の認知症の人の死亡事故

→係全員胸が痛んだ。市として、包括Cとして、何か考えないと…

○警察署からの保護ケース連絡で見えてきた事実

- 名前も言えない意思疎通困難な重度の認知症ケース
→市、包括Cには介護情報はまったくなかった高齢者夫婦世帯
- 名前は旧姓、住所は隣町の実家を答え、家族への引き渡しに時間を要したケース
→包括C相談歴あり、介護認定は受けていたが家族見守りで生活は安定していた

○対応の限界

- どちらも認知症の症状がみられる高齢者夫婦世帯、2人ともそれぞれに道に迷うことがたびたび続いた。電話での受け答えは取り繕えるため、遠方の家族は認知症と理解できない。金曜日の夕暮れに、とうとう夫婦で一緒に、自宅を出て戻れなくなっていた。
→自宅にいないことに気づく家族がいない！

➡埋もれていた事実と盲点から、

警察と市の連携をより具体化することに！

警察署との連携を、数々の対応例からの課題分析

警 察 署	保護した認知症等の方の家族への助言指導は、その都度、間違いなく行っている。 「医者に行くように」、「介護の相談に行くように」
市 町 村	家族等から相談があれば、地域包括支援センターにて個別に対応している。そのときに、「実は警察のお世話になって」と保護されたことを聞くとときもある。

⇒それぞれが間違いなく対応はしている。
しかし、警察署の助言どおりに受診や相談に繋がらない現実がある。

本人の気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・どこも悪くない ・医者には行かない ・世話なんか受けたくない →認知症の人は、自尊心を守るに必死。
家族の気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・本人はイヤだと言うし、しかたないか ・相談はそのうちでいいか ・介護の相談と言われても、どう相談したらいいか分からない ・警察沙汰を知られたくない

⇒家族は警察からの連絡には慌て駆けつけるけれど、喉元過ぎれば熱さを忘れる。
家族が市役所(包括C)へ相談に来るのは、大抵よくよく困ってから。

本人の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・相談に繋がらないと、適切な支援を受けられない ・また徘徊、迷子、そしてまた保護 ・症状の悪化(家族への抵抗、昼夜逆転、夜中の徘徊など)
家族の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・疲れ、あきらめ、悩みの抱え込み、体調不良 ・本人を叱る ・家族仲がぎくしゃく ・開き直り

⇒本人も家族も孤立状態に陥る

警察署は緊急を支援するところ⇔市は日常を支援するところ

対応のスピードも勝手も違う、聞きなれない専門用語等々
どうすれば、うまくつながる仕組みができるのか？

寒河江警察署生活安全課へのお願い

家族に引き渡す際に、「寒河江市の担当者に連絡しておくので、相談に乗ってもらってくださいね。」
と助言してもらい、市(包括C)に連絡するひと手間をお願いした。

→このひと言を言ってもらえると、市が関わりやすくなる

寒河江市では

- 連絡を受けたら間をおかず相談対応

「寒河江警察署の担当の方からご連絡をいただきました。このたびは大変でしたね」と、こちらから家族に連絡し、すみやかに必要な支援につなぐ

- 相談対応結果は、その都度寒河江警察署生活安全課にも連絡

→市(包括C)の仕事を具体的に知ってもらえる

◆連絡を密に行い対応を重ね合ってきた結果(効果)

→警察署の方々に日常の認知症支援の実際を知ってもらえることに。

→警察署の方々に認知症の理解を深めてもらえることに。

山形県内初警察官向け認知症サポーター養成講座実施(H26年度)、認知症サポーターステップアップ講座実施(H29年度)

→共通課題やお互いに関わるメリット等々が具体的に分かるようになり、いわゆる顔の見える関係に。

→日常業務(個別対応)以外に時間を割いて、声かけの啓発や訓練等の事業を共催することに。

さがえ無事かえる協力ネットワーク事業

① 直接支援

・「無事かえる」支援事業

道に迷う心配のある認知症等の人を事前登録

② 地域見守り支援

・認知症サポーター養成講座

“ひと声かけて人助け”の声かけサポーターもお願い

・「どさ、いくなやっす？」ひと声運動

かけて欲しい言葉をそのまま運動に
声かけソング「どさ、いくなやっす？」を作成し、より印象付け

・認知症見守り声かけ訓練

声のかけ方を覚えて声をかける勇気を養ってもらう

③ 緊急支援

・やまがた110ネットワーク

山形県警によるメール配信システムの受信登録

やまがた110ネットワークに連結
山形県警 寒河江市

徘徊のある認知症の方に手助けを!

「さがえ無事かえる協力ネットワーク事業」にご協力ください!

認知症の方が、徘徊や迷子で行方が分からなくなったとしても、自分の家に
“無事に帰る”ことができるよう地域ぐるみで見守り、サポートしていきましょう。

ネットワークイメージ

認知症の方のご家族

「無事かえる」支援事業登録

認知症の方の緊急対応・支援

ご本人の引き渡し

認知症介護支援

認知症の方の日常相談・支援

認知症の方への連携支援

「無事かえる」支援事業登録者の情報共有

寒河江警察署

寒河江市高齢者支援課

発見連絡

やまがた110ネットワーク配信

取り組み協力

認知症見守り事業の取り組み
・認知症サポーター養成講座
・「どさ、いくなやっす?」ひと声運動
・認知症はいかい声かけ訓練 など

ネットワーク協力の皆さん

- ①「やまがた110ネットワーク」の受信登録
- ②メールを受信したら、できる範囲で早期発見の協力(「どさ、いくなやっす?」ひと声運動の実施)
- ③発見したら、寒河江警察署へ連絡 ☎0237-83-0110 もしくは110番

やまがた110ネットワーク登録方法

- ①まずは、yp1@ox03.asp.cuenote.jpに空メールを送信してください。
- ②折り返し、登録方法を案内するメールが届きますので、画面の案内に沿って登録してください。

※その際、情報種別は【**行方不明者手配情報**】を、地域種別は【**寒河江警察署**】を選択してください。(その他も登録できます。)

やまがた110ネットワークとは…
山形県警から、電子メールで安全安心情報を提供するネットワークです。どこからでも無料で登録することができます。詳しくは、山形県警ホームページをご覧ください。

かもちん

やまがた110ネットワーク

①直接支援

願いは1つ、無事に帰って欲しい

「無事かえる」支援事業

H25/12/16～

【事業化の背景】

緊急支援と日常支援の連携を見える化

- 警察署の対応と日常の介護支援をタイムリーに結びつけることはできないか
- 認知症の介護や見守りが、家族任せ・ケアマネジャー任せになっているのではないか

【内容】

◇包括Cによる見守り相談支援

- 本人の情報登録(旧姓、行動の特徴、写真等)
- 見守りグッズの配布(アイロンプリントシール等)
- 行方不明届出のしかたのアドバイス
- 介護の工夫の見直し・アドバイス

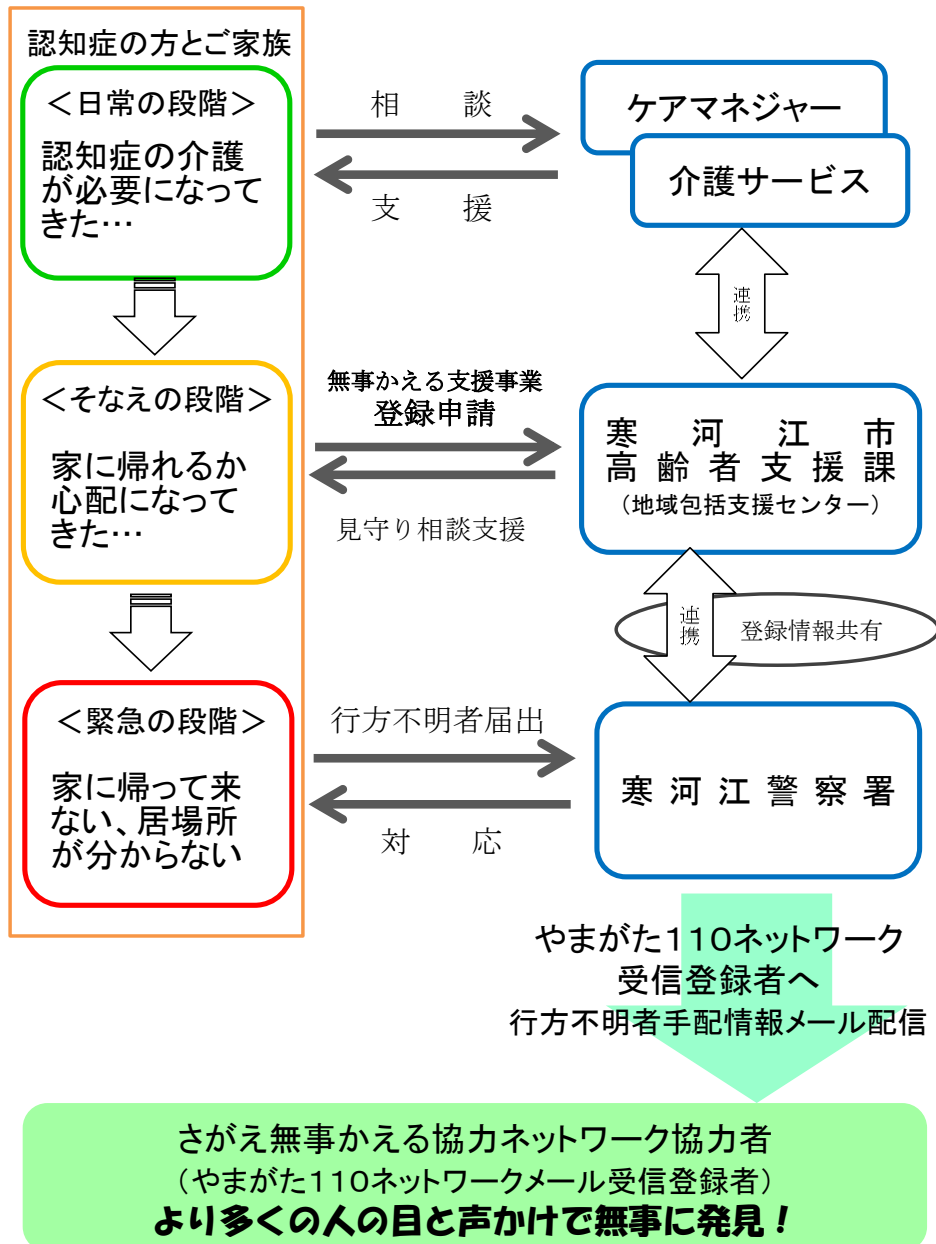
◇登録情報は、寒河江市と寒河江警察署で共有

登録状況(平成30年9月末現在)

登録実人数:122人 延べ人数:198人

※登録がすべてを解決する訳ではない!

「無事かえる」支援事業の活用イメージ



地域包括支援センターによる訪問(見守り相談支援)にて

<p>登録情報の聞き取り</p>	<p>◇ケアマネジメント支援も兼ねる</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録のためだけではなく、生活状況をアセスメントし、介護サービスの使い方や、見守り方を家族やケアマネジャー等と一緒に考える
<p>写真撮影</p>	<p>◇訪問時に写真撮影する目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 直近の写真を登録するため (撮影は、本人にも安心してもらえるように説明し、場合によっては一緒に記念撮影) 申請しやすいように (家族がわざわざ写真撮影して持参せずにする) <p>◇写真の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 市も警察署も紙ベースで保管、データでの管理よりも迅速に活用できる
<p>見守りグッズの活用</p>	<p>◇即、活用してもらえるように</p> <ul style="list-style-type: none"> アイロンプリントシールは貼り方を実演 (もらっただけで安心し、貼るのは「そのうちに」となる可能性もあるため) グッズそれぞれは、本人にも安心してもらえるように説明 (「他の人から間違われないように名前を貼っておきましょうね」、「身分証として持っておきましょうね」等々) 本人の個別の連絡先以外に、包括Cの連絡先も明記 (→道に迷っていた本人に一般市民が声をかけ、バックに入れていたカードを見て包括C連絡をくれたケースあり)
<p>アフターフォロー</p>	<ul style="list-style-type: none"> 登録者が保護された場合は、再発を防ぐために、ケアマネジャーを中心に担当者会議をなるべく開催し、支援体制を見直する



◇GPS活用の難しさ

認知症が進むと、新しい物は持てない、身に着けられない、靴も履きなれたものを好む。

②地域見守り支援

かけて欲しい言葉をそのまま運動に！

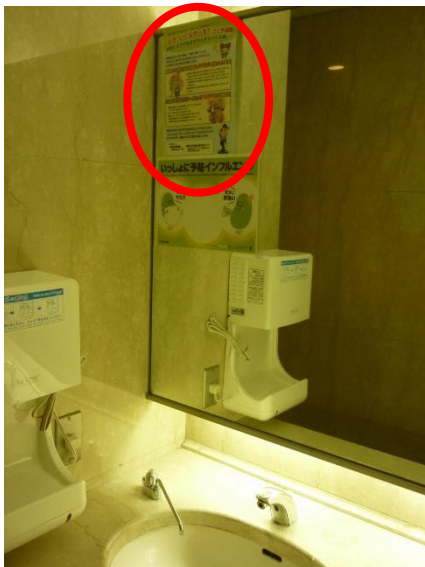
「どさ、いくなやっす？」 ひと声運動

H26.8月～

【背景】警察署現場対応のつぶやき

- ここまで歩いてくる間に、多くの車が通って目にしていたらどうに
- 誰かが声をかけてくれていれば、こんなに遠くで発見されずにすんだらどうに

→なんとか多くの人に関心を持ってもらうために、声かけの協力を呼びかけよう！



チラシはすぐに捨てられる可能性あり
←ラミネート加工して公共施設トイレの鏡に貼ってます



認知症サポーターの金融
機関前で啓発活動←

寒河江市認知症高齢者見守り・「無事かえる」支援事業推進プロジェクト

「どさ、いくなやっす？」ひと声運動 徘徊する方の安全を守る声かけのお願い!



認知症の方が、自分の家に、“無事に帰る”ことができるよう、気がかりな方を見かけたら、ちょっとしたひと声をかけるご協力をお願いします。

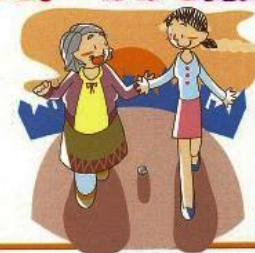
認知症の症状である徘徊は、命の危険を伴っています!



- 徘徊中の認知症の方は、普段答えられることも答えられず、自ら道をたずねたり、助けを求めることもできなくなります。
- 声をかけてもらえないと、どこまでも歩いて行ってしまい、その範囲は何キロも離れた市外まで行ってしまいうことも少なくありません。
- 昼夜関係なく、また雨や雪であつてもかまわずに、歩いてしまいます。

こんな方を見かけたら…、ちょっと“ひと声”かける勇気を!

- 地域では見かけない高齢者が、ウロウロ、キョロキョロ、ソワソワと不自然に歩いている。
- バイパスなどをひたすら歩いている。
- 散歩、ウォーキングとは思えない様子で歩いている。
- 道路の縁石などに、長い時間座り込んでいる。
- 季節や気温に合わない服装で歩いている。 等々



徘徊する方は、自らSOSを求めることができずにいます。
「こんにちは」「どさ、いくなやっす?」「大丈夫だがっす?」などのひと声と、連絡などのご支援をお願いします!

相談窓口

◆寒河江警察署
☎83-0110

◆寒河江市地域包括支援センター
☎86-2111 [内線623]
(寒河江市健康福祉課内)



→とはいっても、声をかけるなんて勇気がいること…
ひと声かける勇気を養おう！

認知症見守り声かけ訓練の実施

開催日	概要	参加者
H26/9/25	・初開催(山形県内でも初)	107人
H27/7/30	・行方不明者情報メール配信『やまがた110ネットワーク』を活用した訓練開始	10人
H27/10/12	・町内会と小規模多機能施設が自主開催	35人
H28/11/16	・広域連携を発信、隣町と同日開催	72人
H29/11/13	・自動車学校協力開催	90人
H30/9/28	・さがえ無事かえる協力ネットワーク推進会議を開催し、これまでの訓練をふり返って企画(内容は当日プログラム参照)	92人

参加者(周知)
町会長、民生児童委員、地域福祉推進員、防犯協会、認知症サポーター、
介護事業所、一般市民等

<訓練の効果>体験アンケートから
・今後、人助けになるなら勇気を出して声をかけてみようと思う(9割)
・できるか分からないが常に意識しておこうと思う(1割)



「どさ、いぐなやっす?」ひと声運動

声のかけ方ポイント

1. まずは、様子を確かめましょう。

↓なんか気がかり…

2. 声をかけてみましょう。

※認知症の方は、道に迷っていることを人に知られたくないと思っていたり、自分でなんとかしようと一生懸命でいたりする場合もあるため、会話は何事もないような受け答えをする可能性もあります。声をかけながら、様子も確認しましょう。

ステップ1: まずは軽いあいさつ

(例)「こんにちは～」、「いい天気だなっす」

↓様子がやっぱり気がかり…

ステップ2: 徘徊や迷子になっていないか状況の確認

(例)「どっから、ごさたなやっす?」、「どさ、いぐなやっす?」

↓様子がどうもおかしい…

ステップ3: 本人情報確認の質問

(例)「家はどごやっす?」、「名前教えてくださいますか?」

↓この様子、このままにしておけない!

3. 警察署への連絡などの対応をしましょう。

- ①まずは、本人を安全な場所で休ませてあげましょう。
- ②本人の話などから連絡先の情報が分かったときは、連絡してあげましょう。
- ③分からなかったときは、警察署に連絡し助けを求めましょう。

もしも…、声をかけた相手が、はいかい(認知症)の心配がない方だった場合は、
「気づけでなっすっ」、「ご苦労様だなっす」など、
明るくあいさつをかわしましょう。

寒河江市地域福祉計画の基本理念は、

“互いに声かけ支えあう 笑顔あふれるまち寒河江”です。

その取り組みへのご協力もお願いします。



↑「声かけてどうすればいい?」の声を受けて作成
市内の認知症サポーター出演してもらい、声かけ場面を再現した学習DVDも制作(H27年度)

認知症見守り声かけ訓練

開催日：平成30年9月28日（金）

会場：寒河江市文化センター及び周辺

◇プログラム

時間	内容
9:00～	<p>開会式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ 寒河江市長 寒河江警察署長 ・「どさいぐなやっす？」声かけソング披露 <p>【さがえ童謡をうたうさくらの会】の皆さん（認知症サポーター）</p> <p>声のかけ方ミニ講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実演：声のかけ方の良い例悪い例 ・寒河江警察署管内における保護等の実際 ・訓練の手順について <p>声かけ訓練エリアへ移動</p>
10:00～	<p>「やまがた 110 ネットワーク」から【行方不明者手配情報】訓練メール配信</p> <p>声かけ訓練開始</p>
11:15～	<p>閉会式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想、意見交換、講評等

◇声のかけ方のポイント

認知症の方は、道に迷っていることを人に知られたくないと思っていたり、自分でなんとかしようと一生懸命でいたりする場合もあるため、会話は何事もないような受け答えをする可能性もあります。声をかけながら、様子も確認しましょう。

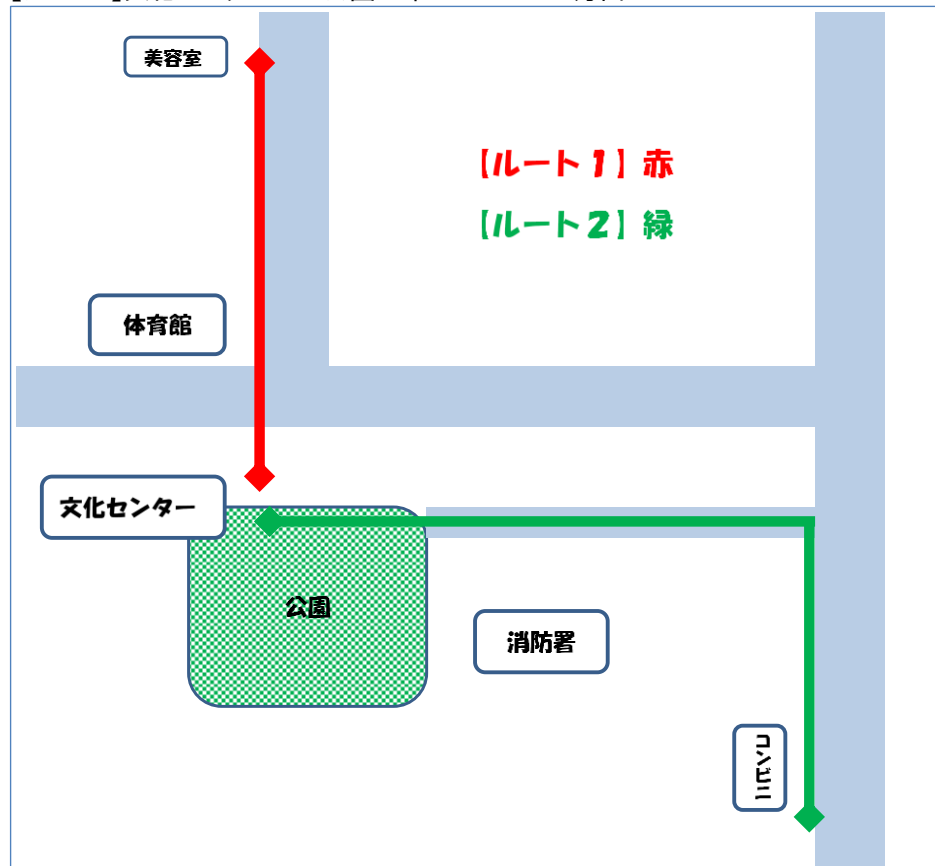
1. まずは、様子を確認しましょう。（服装やしぐさなど）
2. 声をかけてみましょう。
 - ①まずは軽いあいさつ（例）「こんにちは～」、「いい天気だなっす」
 - ②道に迷っていないか状況の確認（例）「どっから、ごさたなやっす？」、「どさ、いぐなやっす？」
 - ③本人情報確認の質問（例）「家はどごやっす？」、「名前教えてくれますか？」
3. 警察署への連絡などの対応をしましょう。
 - ①まずは、本人を安全な場所で休ませてあげましょう。
 - ②本人の話などから連絡先の情報が分かったときは、連絡してあげましょう。
 - ③分からなかったときは、警察署に連絡し助けを求めましょう。



■声かけ訓練エリア

【ルート1】文化センター → 体育館 → 美容室方面

【ルート2】文化センター → 公園の中 → コンビニ方面



■訓練の流れ

1. 参加者は、【ルート1】または【ルート2】に、散らばるように移動。
2. 訓練メール配信を合図に、認知症の人役が模擬徘徊スタート。
3. 参加者は、各々声かけを体験。
 - ・声かけは、2～3人のグループでも可。
 - ・携帯電話を持っている人は、警察への電話連絡の訓練も行う。（ただし、電話が集中しつながりにくい場合あり）
4. 声かけ体験終了者は、そのまま見学またはホールに戻って休憩。

■注意事項

- ・移動する際は、足元や車の往来に十分に気をつけてください。
- ・体調が悪くなった場合は、無理をせずスタッフにお申し出ください。

どうか、声かけの意識を忘れないでほしい！

- ・雪降る冬場は命取り、夏場は熱中症で命取り
- ・雪解けの春は保護が増加する
- ・一般的に人はその事実を知る機会がない

→実際にあった場面を歌詞に
→認知症サポーターは声かけサポーターとしても
講座で必ずお願い「ひと声かけて人助け」

H27年度CD化



作曲・歌・演奏:大沼広美
(市内在住)

コーラス:寒河江警察署員

●使用取扱要綱整備

(寒河江市外全国の市町村でも
使用可能 ※方言部分変更可、
楽譜とCDを提供)



↑現在は、市内のコーラスサークル
【さがえ童謡をうたうさくらの会】が歌う
サポーターとして啓発協力

認知症はいかい声かけソング
「どさ、いぐなやっす？」

(どさ、いぐなやっす)

こんな雨なか こんな雪なか
どっから来たなや どこさ行くなや

(どこさ行くなや)

気になる気になる にんちしょう
ひと声かけて 人助け

どさ、どさ、 どさ、どさ、

「どさ、いぐなやっす？」

(どさ、いぐなやっす)

どさ、どさ、 どさ、どさ、

「どさ、いぐなやっす？」

2番 こんな朝方 こんな夜

3番 真冬にサンダル？

真夏にセーター？

4番 道の真ん中 わき目も振らず

5番 ひとけない道 キョロキョロ歩く

6番 ここはバイパス どこまで歩くの

7番 こんなところに 座り込み

3. 緊急支援



- ・認知症の人のご家族は、いざという時は、ためらわずに届出を！
- ・地域の人たちは、受信登録のご協力を！

やまがた110ネットワークとは・・・

山形県警察から、登録者の携帯電話やパソコンに対して電子メールで安全安心情報を提供するネットワーク

受信登録(項目選択)

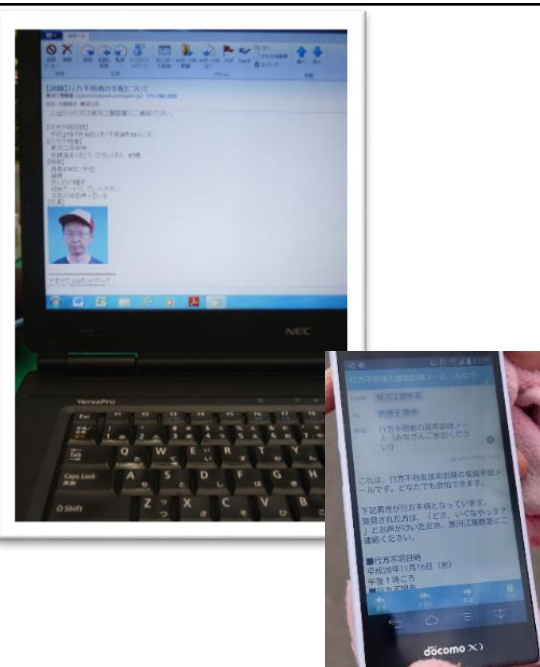
【情報種別】

1. 事件手配
2. 特殊詐欺発生
3. 不審者情報
4. 行方不明者手配
5. 交通安全情報
6. 交通障害情報
7. 防災情報
8. ポリスインフォメーション

【地域種別】

情報は県内14警察署の管轄地域ごとに区分して配信

行方不明者手配配信



発見・保護の協力

- ・ 訓練参加者が実際に道に迷っていた認知症の方を保護(訓練の効果)
- ・ 「どさ、いくなやっす？」ひと声運動を始めた翌年H27年からは、前年度より行方不明届出が減少し、届出が出る前の一般の人からの通報保護が増加(啓発の効果)
- ・ 課題はやまがた110ネットワーク登録者を増やすこと(年配者は声かけ意識が最も高いが、携帯操作は苦手)